

希少繭「小石丸（巨理）」と「桑プリン」による復興促進・地域再生 「純国産宝絹 takaraginu 展・藤崎」に出展します

有限責任事業組合地域創生ビジョン研究所では、株式会社シルク総合開発、公立大学法人宮城大学とともに、地域が潜在的に保有している社会資源に着目し、付加価値の高い新養蚕技術を開発しました。この度、これまでの成果を全国の蚕糸、絹事業関係者に報告し、新養蚕技術の普及を図ります。

被災地の中山間地域には、地域資源として「桑園」、「養蚕技術」が存在します。これらに着目し、大学最新の研究成果を活用して、付加価値が高くすそ野の広い新・養蚕業と健康増進食品を創出し、「地域再生」を図っています。

これまでの研究成果から、希少蚕種・小石丸（巨理）の飼育によって、農家が個々に繭から付加価値の高い生糸まで生産できることを実証しました。この度、この新養蚕技術の普及のために下記の内容で、「純国産宝絹 takaraginu 展・藤崎」に出展します。

- 実施日時 平成 28 年 1 月 28 日（木）～2 月 2 日（火）
- 実施場所 仙台市藤崎デパート本館 7F「純国産宝絹 takaraginu 展・藤崎」
- 実施内容 ブース出展、糸繰ワークショップ、セミナー

概要は添付資料をご参照ください。

【本件に関する報道関係の問合せ先】
有限責任事業組合地域創生ビジョン研究所
代表組合員 所長 園部 尚
TEL： 090-4187-1903
Email： sonobe61@gmail.com

※当プレスリリースは「新しい東北」官民連携推進協議会の事務局が協議会会員に代わって発信するものであり、内容についてのお問合せは上記問合せ先へお願いします。

「新・地域分散型養蚕」による希少繭・小石丸(巨理)の絹糸生産と染織

取組の目的・概要・先導性

(株)シルク総合開発・宮城大学・地域創生ビジョン研究所

JST A-STEP事業・「新しい東北」先導モデル事業

取組全体の目的・概要:

被災地の中山間地域には、地域資源として「桑園」、「養蚕技術」が存在する。これらに着目し、大学最新の研究成果を活用して付加価値が高くすそ野の広い新・養蚕業と健康増進食品を創出し、「地域再生」を図る。これまでの研究成果から、希少蚕種・小石丸(巨理)の飼育によって農家が個々に繭から付加価値の高い生糸まで生産できることを実証した。この新養蚕技術を普及し、国際経応力のある日本産絹を増産する。

取組の先導性:

大学発の新・糸繰り技術、塩溶液法と希少蚕種「小石丸(巨理)」の組合せは、東北の中山間地で、高齢者自らが地域資源を活用して他の蚕種の10倍以上高価格の生糸を生産できる。すそ野の広い新・養蚕業が新たなビジネスモデルとなる。

取組内容



【取組①】「小石丸(巨理)の増殖」
実施主体【(株)シルク総合開発】
3頭の卵=>孵化 幼蚕=>上族=>収繭

【取組②】「桑含有健康増進食品(桑プリン)の製品化」、実施主体【有限責任事業組合 地域創生ビジョン研究所】
桑プリンの製品化。
・桑葉と米粉入りの新味覚を創出。
地域発6次産業化が目的。



【取組③】「店舗販売とネット通販による流通の開拓」、実施主体【有限責任事業組合 地域創生ビジョン研究所】
ネットショップ開店準備中。生糸、絹製品販売予定。



繭の繰糸法比較

(株)シルク総合開発 宮城大学 地域創生ビジョン研究所

JST A-STEP 事業

繰糸法	処理工程	長所・短所
生繭繰糸法	<ul style="list-style-type: none"> ・煮繭 (85℃10分) ・繰糸 (50℃) ・揚返し後水洗、遠心脱水風 	<p>繭の貯蔵ができない。 高温での煮繭が必要。 大量の繰糸に向かない。</p>
乾繭法	<ul style="list-style-type: none"> ・熱風乾燥 (110→60℃) ・煮繭 (100℃3分後常温水1分×5回) ・繰糸 (40 - 50℃) ・揚返し後水洗、遠心脱水風乾 	<p>繭の貯蔵が可能。 前処理に高エネルギーが必要。 製造コスト大。</p>
新糸繰法 <塩溶液法>	<ul style="list-style-type: none"> ・高濃度塩溶液中に貯蔵 (30℃) ・繰糸 (2~30℃) ・揚返し後水洗 ・遠心脱水風乾 	<p>繭の室温貯蔵が可能。 室温での繰糸が可能。 半自動繰糸が可能。 低エネルギー消費で低コスト。</p>